

福祉科の指導法

単位数	履修方法	配当年次
4	R	2年以上

科目コード	EC3704	担当教員	佐藤赤塚 暢芳(上) 俊治(下)
-------	--------	------	---------------------



■科目の内容

「福祉科の指導法」は、高校福祉科の社会福祉に関する専門教科の科目ではなく、教科教育法に関する科目である以上、社会福祉の制度や歴史そのものを理解するというより、その理解のさせ方に関する教育実践上の視点、留意点、その教育方法と教材の仕方に関して学ぶ科目です。しかしながら、その内容と展開過程は当然のことながら、社会福祉の基礎知識を体系的に理解するのと同じような考え方が根底になければなりません。

本科目では、「福祉科」を学ぶことの意義、また、福祉のもつ社会的な役割について学ぶことを目的としています。しかも専門教科「福祉」の科目の構成は、教科の目標を達成するとともに、職業資格取得との関連、とりわけ介護福祉士国家試験受験資格取得との関連を考慮し、9科目（社会福祉基礎・介護福祉基礎・コミュニケーション技術・生活支援技術・介護過程・介護総合演習・介護実習・こころとからだの理解・福祉情報活用）で構成されているだけに、それぞれの科目に共通した指導法をどのように展開するかが大きな課題となっています。そこで本科目では、今日の社会福祉の動向を的確に把握するとともに、いかにして学ぶ側の生徒の視点に立ちながらわかりやすい授業を展開するための教授の方法と技術、教材教具研究の方法および授業計画の作成方法、具体的な指導計画案などについての可能性を探り、将来の福祉科教員としての資質を高める内容にしたいと考えています。

また、平成12年に初めて告示された学習指導要領における教科「福祉」の科目は、7科目（社会福祉基礎・社会福祉制度・社会福祉援助技術・基礎介護・社会福祉実習・社会福祉演習・福祉情報処理）でしたが、平成21年に告示された学習指導要領において、上記の9科目に改訂になりました。なお、平成21年告示の9科目と従前の7科目との関連としては、従来の7科目を整理統合した科目（1科目）や名称変更した科目（5科目）、と新設された科目（3科目）に改訂されています。

なお、新学習指導要領は、平成21年より一部前倒しで実施されてきましたが、平成23年度に完成年度を迎えました。よって、平成23年度以降は全学年が新学習指導要領に沿って教科「福祉」を学ぶことになります。

■到達目標

- 1) 教科「福祉」の教育評価について述べることができる。
- 2) 教科「福祉」の各科目における、教育上配慮すべき点を説明できる。
- 3) 学校外における社会資源の活用法および連携法について述べるができる。
- 4) 「介護実習」の指導上の留意点を、教科「福祉」の各科目と関連させ、説明できる。
- 5) 授業等をとおして生徒の対人関係能力を高めるために、教科「福祉」の各科目において、教員はどのような指導や工夫が必要であるか解説できる。

6) 「社会福祉基礎」の指導上の留意点を、教材・教具の活用と関連させ説明できる。

■教科書

- 1) 大橋謙策編著『福祉科指導法入門』中央法規出版、2002年
- 2) 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 福祉編』海文堂出版、2010年

(平成20年度以前履修登録者) 2009年4月より学習指導要領の改正にともない、2)が上記教科書に変更されています。

■在宅学習15のポイント

() 内は教科書1)の関連章ですが、教科書2)も参照しながら学習を進めてください。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
1	社会福祉の学びと指導法について (序章)	社会福祉の学問的特徴を学び、指導法を理解する。	社会福祉の考え方と学び方を理解し、特色を説明できるようにしましょう。
2	高校における福祉教育の位置と高校福祉科 (第1部)	高校福祉科の設置経緯とねらい、高校福祉科の位置づけについて学ぶ。	福祉教育の必要性と考え方、職業教育の位置づけの見直しと高校福祉科の関係を考えてみましょう。
3	学ぶ高校生への理解 (第1部)	現代の高校生の特徴について、多角的に学ぶ。	携帯電話等によるコミュニケーション環境の変化について考えてみましょう。
4	福祉科生徒のキャリア展望と生涯学習 (第1部)	実践家としての自己研鑽と研修について学び、生涯学習体系を理解する。	社会福祉従事者としての生涯にわたる職業能力の開発や教養の蓄積、実践力の喚起と職場等の学習課題の関わりを考えてみましょう。
5	高校福祉科の教育目標と教育内容の考え方 (第2部)	高校福祉科の教育目標と教育内容の考え方について学ぶ。	学習指導要領を理解し、各科目の指導計画の作成について考えてみましょう。
6	社会福祉基礎の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	社会福祉基礎の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	社会福祉基礎の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
7	介護福祉基礎の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	介護福祉基礎の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	介護福祉基礎の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
8	コミュニケーション技術の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	コミュニケーション技術の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	コミュニケーション技術の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
9	生活支援技術の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	生活支援技術の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	生活支援技術の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。

回数	テーマ	学習内容	学びのポイント
10	介護過程の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	介護過程の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	介護過程の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
11	介護総合演習の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	介護総合演習の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	介護総合演習の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
12	介護実習の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	介護実習の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	介護実習の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
13	こころとからだの理解の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	こころとからだの理解の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	こころとからだの理解の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
14	福祉情報活用の考え方、内容および具体的展開方法 (第2部)	福祉情報活用の科目の内容と授業の具体的な展開方法について学ぶ。	福祉情報活用の科目の特徴と関連して、効果的な授業の展開方法について具体的に考えてみましょう。
15	福祉教育の実践課題 (第3部)	時代の変化に対応した、実践課題について学ぶ。	教育環境・労働環境・福祉制度等の変化に伴う実践課題について具体的に考えてみましょう。

■レポート課題

1 単位め	教科「福祉」の科目を具体的に教える際の教育目標を設定し、その考え方を決定する場合、何を教育上留意すべきかを論述しなさい。
2 単位め	教科「福祉」の科目における教材教具決定の技術について論述しなさい。
3 単位め	福祉科教諭の資質について論述しなさい。
4 単位め	社会福祉基礎の中から一つの「単元」を取り上げ、その授業の具体的な授業展開について、簡潔に論述しなさい。

■アドバイス

「福祉科の指導法」を学習する前に教科「福祉」の創設の理由を知ることが重要です。そのためには、「高等学校学習指導要領」の改訂の背景について考察することが大切です。改訂の背景には、科学技術の発展、社会経済の国際化・情報化、人口の少子高齢化、環境問題の深刻化などの社会状況にあります。こうした社会状況から生み落とされるさまざまな生活問題に対応する人材とその育成が必要となりました。そこで新たに加えられた教科「福祉」の目標については、「社会福祉に関する基礎的・基本的な知識と技術を総合的・体験的に習得させ、社会福祉の理念と意義を理解させるとともに、社会福祉に関する諸課題を主体的に解決し、社会福祉の増進に寄与する創造的な能力と実践的な態度を育てることを重視した」と掲げています。このことは福祉サービスに従事する人材の確保と資質の向上や福祉サービスの多様化に対応するために専門的知識と技術を取得した人材需要の増大を見込んだ改訂とも思われます。

こうした教科「福祉」の目標に沿って、どのような指導法が適切なのかは現在のところ模索の域を越えていないのが現状と思われます。いずれにしても教科「福祉」を学んだ生徒が社会福祉関連の職業に従事するにしても、基本的人権やプライバシーの尊重など自立生活を支援するための態度の必要性を習得した者が『現場』で実践的に行うことが何よりも重要なことです。そのためには「福祉科の指導法」では教育目標と教育内容の考え方を明確にし、より具体的な授業の展開方法を学ぶことが大切です。とくに、生徒の社会的経験、体験が教える側である教員からすると希薄であり、たとえ同じ生活問題を捉えるにしても意味内容においてもズレが生じる場合があります。したがって一つ的生活問題を取り上げるにしても発問や教材の工夫によっては大きく変わってくる場合があります。そうした点を十分に留意しながら授業を展開することが大切になります。

なお、レポート作成を行う際は、常に学ぶ側の視点にたった指導法を考慮しながら仕上げてください。

1単位め アドバイス

レポート作成に取り掛かる前に『高等学校学習指導要領福祉編』を熟読してから、教科「福祉」の9科目（従前は7科目）の教科内容や位置づけについて理解を深めることが重要です。その際、生徒の「福祉」意識・理解の醸成・培養をも視野に入れながら考察することが大切です。その学習が終了した上で、テキストの第1章から第11章までをよく読み、「福祉科の指導法」の基本的な理解に努めてください。教科書「福祉科指導法入門」は、従前の7科目に関してまとめられていますが、内容としては、新たな9科目とも関連が深いので、新旧の科目の整理を行いながら理解を深めてください。とにかく、冒頭にも記述したようにこの科目は社会福祉に関する専門科目ではなく、教科教育法に関する科目であることを忘れないでください。こうした科目の特徴を踏まえながら「教育者として何を生徒たちに教え、また、教えたいのか」、「福祉科の教員として、何を具体的に教え、そしてどのような福祉の内容を生徒たちに教えたいのか」、また、生徒に「福祉とは何か」を具体的に理解させる前に、教える側の教員にとって「福祉とは何か」をきちんと理解しておく必要があります。このような教科「福祉」の特徴を踏まえながら、福祉科教員として生徒たちに現代の社会福祉をどのような方法で教えるべきかを考察して、簡潔に述べてください。

2単位め アドバイス

授業を開始する以前にあらかじめ、どのような授業をするかについて考えておく必要があります。そのために必要なことは、授業の「計画」であり、授業の「案を練ること」です。一般にこのことは「教材研究」とよんでいます。今回の課題は教材教具決定の技術について論述しなければなりません。教材教具決定の技術とは、「何のために」「何を」教えるかを定める技術のことです。「何のために」は、教育目標であり、「何を」は教材教具にあたります。教材教具決定の技術を明らかにするためには、教育目標と教材教具ということばおよび両者の関係を明確にしておく必要があります。この課題に関する内容については、テキストの第2部を参考にしながら、可能な限り具体的な例を取り上げて書いてください。

3単位め アドバイス

福祉科教諭の資質を検討する前に、教科「福祉」の創設の理由を知ることが重要です。そのためには、「高等学校学習指導要領」の改訂の背景について考察することが大切です。とくに教科「福祉」の目標を十分に理解するとともに、福祉科教諭を目指す学生は、教育目標

と教育内容の考え方を明確にし、より具体的な授業の展開方法を学ぶことが大切です。前述したように、生徒の社会的経験・体験と教える側である教諭（実習生）とではズレが生じる場合があります。その際、生徒の「福祉」意識・理解の醸成・培養をも視野に入れながら考察することが大切です。そして何よりも「教育者として何を生徒たちに教え、また、教えたのか」、「福祉科の教員として、何を具体的に教え、そしてどのような福祉の内容を生徒たちに教えたのか」、また、生徒に「福祉とは何か」を具体的に理解させるためには、教える側である教員にとって「福祉とは何か」を理解しておく必要があります。こうした点を考察しながら福祉科教諭としての資質について論述してください。

4単位め アドバイス

テキスト第2部第5章（社会福祉基礎）および第6章（社会福祉制度）のそれぞれの科目の考え方、内容および具体的な展開方法を熟読し、その中で最も関心のある部分を「単元」として取り上げ、具体的な授業の展開を論述してください。平成21年に告示された学習指導要領の科目「社会福祉基礎」は、従来の「社会福祉基礎」と「社会福祉制度」が整理統合された内容となっています。レポートの提出科目は、「社会福祉基礎」ですが、内容としては、従来の「社会福祉基礎」と「社会福祉制度」双方が該当します。この際、科目の位置づけおよび教育上留意すべきポイントと教材例を考えながら、生徒に教えるつもりで論述してください。なお、授業時間は、1単位時間（50分）を想定し、書き方は第5章および第6章の「具体的な授業展開例」を参考にしながら作成してください。表にして書く必要はありません。

■科目修了試験 評価基準

内容理解が一番のポイントであるが、多角的な考察がなされているか、記述の分量（1問あたり400～800字程度）も評価の対象となる。

■参考図書

硯川眞旬・佐藤豊道・柿本誠編著『福祉教科教育法』ミネルヴァ書房、2002年
保住芳美編著『高等学校新学習指導要領の展開 福祉科編』明治図書、2010年